

## 世界の約束が、果たされるために。

◆世界の 6,400 万人の子どもが学校教育を受けられず、7 億 5,000 万人の大人が、読み書きができません。

◆世界の国々は約束しました。2030 年までに、だれひとり、とり残さず、質の高い教育が受けられるようにすることを (SDG4)。



100 か国以上の子どもたちが、日本では 622 校・グループ、4 万 9,294 人が参加しました。

「世界一大きな授業 2019」(実施:教育協力 NGO ネットワーク/JNNE、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン)が 4 月 13 日～6 月 30 日に行われました。幼稚園から小学校、中学校、高校、中高一貫校、フリースクール、塾、大学、短大、専門学校、高専、NPO、さらに企業、行政機関など、全国の 622 の学校・グループが、それぞれ「授業」を行いました。

4 万 9,294 人に上る参加者は、世界の子どもたちには貧困、児童労働、紛争、自然災害をはじめ数々の困難があることを学び、問題の解決のみちを話し合い、提言にまとめました。「世界一大きな授業」の事務局に国内、海外から寄せられた感想と提言は 9 万字を超えます。今年は、世界の子どもについて思いが記されるとともに、国内のいじめ、貧困、アルバイトと正社員との賃金格差、差別の問題、外国にルーツを持つ子どもたちの前に立ちふさがる壁、あるいは自分自身の教育を受ける権利が阻まれる現実が綴られました(あわせてウェブサイトをご覧ください)。

すべての人が教育を受けることができるようになったときに、初めて「平和」だと言える。宮崎学園中学・高等学校生徒(宮崎県)



◆働いている子どもたちは、お金を稼ぐことができ羨ましいと思うこともありましたが、でも、働きたい気持ちが大変なことを知りました。まなびやとら生徒(愛媛県) ◆自分と同じ子どもたちが環境が違うだけで、人生や自由を奪われると思うと悲しい気持ちになります。高森町立高森南小学校児童(長野県) ◆自分のやりたいことができないということは、あつてはいけないことだと改めて思いました。真岡市立山前中学校生徒(栃木県) ◆政府は教育に十分なお金をかけていないことは知っていたが、今日、実際に統計を見て衝撃だった。市立札幌大通高等学校生徒(北海道) ◆今回学習したのは主にデータ上のことであり、まだまだ見えていないことや、知られていないことが多いだろうということも感じました。尚綱高等学校生徒(熊本県)

教科書や文具などもフェアトレード製品で購入するようになってほしい。横浜商業高等学校国際学科生徒(神奈川県)

◆異常ほど安い製品の裏には、労働を強いられている子どもたちがいるのではないかとすると、消費者としての責任の重さを改めて感じた。賢明女子学院中学高等学校生徒(兵庫県) ◆軍事的なことにお金を掛けるのではなく、世界中が平和になる方にお金を使ってほしいです。秋田県立足尾農業高等学校生徒 ◆今回、授業では例えばゲーム開発だったが、それ以外にも他にも支援に回せるお金があると思う。きのくに国際高等専修学校生徒(和歌山県) ◆すべての若者と大人が読み書き計算ができるような環境を整えるため、日本で募金活動を行う他に、ゲーム税をつくらせたり、議員の減給や軍事費の削減を行なったりすることができると思う。岡山県立真庭高等学校生徒 ◆We can tell what we learned today to our friends who don't know this world situation. 啓新高等学校生徒(福井県)

私たちは自分たちの思いを政治家の皆さんに語る場を切望しています。日本福祉大学付属高等学校生徒(愛知県)



◆2030 年までに 340 万人の先生が必要だから、将来私は先生になります。江戸川区立篠崎第三小学校児童(東京都) ◆ひとつの問題に対して、いろいろな意見があり、話し合う必要があると感じました。高槻市立第三中学校生徒(大阪府) ◆たくさん問題が複雑に絡み合っており、良いと思っっている支援でも、必要なかつり過不足があったりして、ためにならない支援になる場合もあることがわかった。福岡舞鶴高等学校生徒(福岡県)

主催:教育協力 NGO ネットワーク(JNNE) <途上国で教育協力を行う NGO 20 団体のネットワーク>  
共催:(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン  
企画・実施:(特活)開発教育協会 (公社)ガールスカウト日本連盟 Global Citizen (公財)日本 YMCA 同盟  
(公財)プラン・インターナショナル・ジャパン (特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (特活)ラオスのこども  
助成:(公財)大阪コミュニティ財団 (公財)公文国際奨学財団 リコー社会貢献クラブ・FreeWill  
協力:(特活)地球対話ラボ  
後援:文部科学省/外務省/全国連合小学校長会/全日本中学校長会/全国高等学校長協会/日本ユネスコ国内委員会/  
ユネスコ・アジア文化センター/ESD 活動支援センター/SDGs 市民社会ネットワーク/国際協力機構/国際連合広報センター/  
児童労働ネットワーク  
■事務局 〒157-0062 東京都世田谷区南鳥山 6-6-5-3F 認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン内  
E メール:gce.japan.campaign@gmail.com 世界一大きな授業 URL:http://www.jnne.org/gce/

世界の子どもたちが考えた。話し合った。政府に声を届けた。どうしたら、だれもが学べるようになるのだろうか。

2019 年 4 月、世界 100 か国以上で「教育のためのグローバル・アクション・ウィーク」が開催されました。今年は、「My Education, My Rights 教育はわたしの権利」をスローガンに、「学ぶ権利について、あなた自身のことを語って、みんなと分かち合えよう」「教育の権利が守られるように、政府に訴えかけよう」と、呼びかけられました。



フィリピンでは、子ども・若者と先生たちが、先住民、障害のある子ども、イスラム教徒の子ども、遠隔地や都市部の経済的な困難を抱える子どもへの教育予算を拡充して、奨学金、給食、通学費用の補助などが実施されるよう訴えました。また、フィリピンには、児童労働、10 代の母など様々な理由で通常の授業に出ることが難しい生徒のためのオープンハイスクールというプログラムが開発されています。夜間学校とともに、こうした多様な学びの機会がしっかりと普及して、学業が中断されることなく、教育を受ける権利が確かなものになるよう提言しました。



タンザニアでは、ハイスクールの生徒たちが教育の課題についてディスカッションしました。その中で重要なポイントのひとつとして、清潔な水の確保や生理用品が必要であることが指摘されました。キャンペーンの始まりと締めくくりにはマーチを行い、社会にアピールしました。アメリカでは、子どもたちが自分にとっての教育を語り、教育は権利であることが話し合われました。

中高生が各党の国会議員の「生徒」20 人に協力・支援の大切さを実感する授業を企画・実施



5 月 15 日、中高生による国会議員のための「世界一大きな授業」を衆議院第二議員会館で行いました。生徒(国会議員)は、途上国、先進国それぞれの教育状況を反映したすぐろくで進級と進学を疑似体験。途上国チームは災害復興に時間がかかり授業が再開されないなど困難に遭います。先進国チームは楽々と進学します。終了後、先生(中高生)から「このすぐろくの目的は、他のチームよりも多く卒業生を出すことではありません。サイコロを他のチームに貸して協力することもできたはず」と指摘されました。国会議員にとって、協力の大切さ

にあらためて気づかされる機会となったようです。授業の後、多くの議員が SNS や市民集会などで報告しました。



動画はこちら

国内・海外 3,994 人からの提言、低所得国への基礎教育支援の拡充を!



外務省の審議官に手紙を手渡しました!



8 月 6 日、JNNE のメンバーと中・高校生は外務省で、松浦博司 NGO 担当大使(国際協力局審議官地球規模課題担当)と面会し、「世界一大きな授業」参加者から寄せられた「首相・外務大臣への手紙」を手渡し、途上国の子どもたちへの教育援助増額を申し入れました。

松浦審議官は「皆さんからは、日本の政策の中心にある国会議員の方々への意味のある提言をいただき、ありがとうございます」と、子どもたちからの提言を受け取りました。

これからも、世界のすべての子どもたちが教育を受けられるために、アクションしよう!

